

吾妻学園防災手帳

取扱説明書

「いざという時、大人にも子どもにも役立つものに」

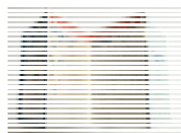
内容	目次	ページ
本手帳の仕様		1
使用方法 吾妻学園防災マップ		2
手帳作成の目的		3
使用上の注意		3
制作にあたって		4
携帯のアイデア		4
使用方法 吾妻学園防災手帳		裏面

発行 吾妻小学校 PTA、吾妻中学校 PTA
編集協力 吾妻学園おやじの会

本手帳の仕様

災害時に役立つ情報と防災マップ
A3 両面印刷の折り畳み式

子ども版



大人版



内側は
防災マップ



基本的な使い方

以下の内容を子どもが書き入れます。

- ・自宅の位置、災害時の待ち合わせ場所（マークはマップ右下凡例参照！）

・通学路

吾妻地区のランドマークを塗り絵にし、地区内の自宅・待ち合わせ場所の位置関係を認識できるようにします。

- ・松見公園タワー
- ・エキスポセンターロケット

「災害用伝言ダイヤル」
被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に NTT より提供が開始される声の伝言板

- ・録音再生には通話料がかかりますが、避難所の特設電話からは無料です。
- ・体験利用提供日を活用し、概要を理解しておきましょう。

『おかしも(ち)』
学校での災害発生時に避難の原則を示す標識

『公衆電話を活用』
東日本大震災の際は携帯電話は使い物にならず、公衆電話が比較的つながりやすかった。

『色を塗ろう!』
地区内の自宅・待ち合わせ場所の位置関係を認識するために色を塗ろう!

『書き込もう!』
必要な情報を書き入れ、我が家オリジナルのマップにしましょう!

『大切な人の連絡先』
遠方の親戚・知人など、自宅地域以外の連絡先も控えておくと、非常時に家族との連絡手段となります。

書き込み時のアイデア㊤ 透明ふせんでカスタマイズ!

やぶれにくいフィルム素材のふせんを使うと、半透明で下の文字も透けて見えるので便利です。

手帳作成の目的

- ★手帳とマップを家族で読むこと、眺めることで、地域、学校、家庭での災害や事故から身を守ることを考えます。
- ★地域の人たちが、吾妻学園の子ども達は防災手帳を携行していることを知り、もしもの時にそれぞれの子どもに応じた対応を促します。

使用上の注意

- ★子どもも大人も、まずは自分の身を守ることを考えましょう。
- ★大人と子ども一緒によく読み、話し合いながら、持ち歩く準備を進めましょう。
- ★書き込んだ情報は、定期的に見直しましょう。
- ★災害時に必要な情報は各家庭で異なります。必要な情報を書き込んだオリジナルの防災手帳・マップを作りましょう。

3

制作にあたって

この「吾妻小防災手帳」は、平成 26 年度吾妻小学校が指定を受けた「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」の展開として、吾妻小 PTA 広報委員会が企画・編集したものです。

携帯のアイデア

- 「鉛筆とケースに入れてランドセルへ」
ひもやストラップをつけておくと、非常時に首から下げることできます。
- ・首かけ式パスポートケース
 - ・100円ショップのファスナーケースにストラップ・・・等、工夫してみましょう。



基本的な使い方

子ども版

- 大人と子ども、一緒に読みましょう。
- 災害が起きた時に子どもが自分で見る「自分で確認すること」、まわりの大人に見せて助けをもとめる「まわりの人に見せること」という手帳の構成を確認しましょう。
- 「引き渡し」について、誰が、どの順番で来るのか（きょうだいがいる場合）を確認しましょう。
- 「待ち合わせ」は、災害が発生した時間によって、適切な場所を考えましょう。
- 「まわりの人に伝えたいこと」は、大人の目線で、子どもの安全を考えた時に必要なことを記入しましょう。

例) 子どもの健康のこと…アレルギーがあります。〇〇という薬を服用中。
災害発生時の家族の約束事… 近所の〇〇さんの家で待たせてもらうこと。

大人版

- まず、災害発生時の「イメージトレーニング」から始めましょう。
- 情報の収集方法を裏面防災マップ「災害時の情報収集先」で確認しましょう。
- 子どもたちの引き渡しについて、確認しましょう。小・中にお子さんがある家庭は、引き渡しの順番に注意しましょう。
- 必ずしも「災害発生→避難所へ」とは限りません。判断の基準を確認しましょう。
- 備えは大丈夫ですか？新しい建物が多い吾妻地区は、避難するよりも自宅で過ごすことを考える方が現実的です。それぞれの家庭に合わせ、備蓄するものの種類、数を考えましょう。

